

Abbreviated Translation of JP 58-7877 Y2

(21) Utility Model Application Number: U1978-66961

(22) Application Date: May 15, 1978

(65) Laid-Open Number: JP54-166741 U

5 (66) Laid-Open Date: November 22, 1979

(71) Applicant: Matsushita Electric Works Co., Ltd.,

(54) Title of the Utility Model: Corner edge

Page 117, column 1, lines 20 to 25

As shown in Fig. 1, a running edge (corner edge) formed of  
10 rigid polyvinyl chloride resin according to a prior art is attached by  
a fitting 3 onto an edge member 2 mounted on a wall 1 of a building.  
A ceiling board member 5 is held between a longitudinal piece 4  
and the edge member 2 (or the fitting 3 for the edge member 2) so  
that the joint portion of the wall 1 and the ceiling board member 5  
15 is concealed by the longitudinal piece 4 and the lateral piece 6.

Explanation of the Drawings:

Fig. 1 is a cross sectional view of a prior art corner bead; (Rest  
omitted)

⑫ 実用新案公報 (Y 2) 昭 58-7877

⑮ Int.Cl.<sup>3</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑯ 公告 昭和 58 年 (1983) 2 月 12 日

E 04 F 19/02  
E 04 B 5/57  
E 04 F 19/04

102

7014-2 E  
6838-2 E  
7014-2 E

(全 2 頁)

BEST AVAILABLE COPY

1

2

⑭ 見切り縁

⑰ 実 願 昭 53-66961

⑱ 出 願 昭 53 (1978) 5 月 15 日

⑲ 公 開 昭 54-166741

⑳ 昭 54 (1979) 11 月 22 日

㉑ 考 案 者 松村 輝男

門真市大字門真 1048 番地 松下

電工株式会社内

㉒ 出 願 人 松下電工株式会社

門真市大字門真 1048 番地

㉓ 代 理 人 弁理士 宮井 咲夫

㉔ 実用新案登録請求の範囲

板状体の一方側の厚みを薄くして湾曲させその側縁に軟質材を付設するとともに他方側に取付部を設けた見切り縁。

考案の詳細な説明

この考案は見切り縁に関するものである。

従来の硬質塩化ビニル樹脂などで成形した回り縁は第 1 図に示すように建築物の壁面 1 に取付けた野縁 2 に固定具 3 を介して取付けられ、その縦片 4 と野縁 2 (または野縁取付具 3) とで天井材 5 を挟持するとともに縦片 4 と横片 6 とで壁面 1 と天井材 5 との接合部分をかくすようにしている。また、このような回り縁は気密性を保持させるとともに厚みの異なる各種の天井材 5 にも適用できるように縦片 4 の上端に軟質塩化ビニル樹脂からなるパツキン 7 を付設しているが、このパツキン 7 ではわずかな厚みの吸収しかできず、厚い天井材 5 を用いた場合には同図の一点鎖線で示すように硬質塩化ビニル樹脂からなる横片 6 が下方に歪んで湾曲しその美観を損うという問題があつた。

したがつて、この考案の目的は、厚みの異なる各種の建築用板を用いた接合部分に用いることができる見切り縁を提供することにある。

この考案の実施例を第 2 図ないし第 4 図により

説明する。すなわちこの考案の第 1 の実施例は、第 2 図に示すように板状水平片 8 の一方側の上方に取付部 9 を設けるとともに他方の側方の延長部分に厚みを薄くした上方湾曲部 10 を一体的に設け、さらに上方湾曲部 10 の上端を内側に屈曲させて水平部 11 とし、この水平部 11 に軟質塩化ビニル樹脂からなるパツキン 12 を付設したものからなる。またこれら板状水平片 8 およびこれに連続した上方湾曲部 10 の表面側にはその長手方向に沿つて水平方向に延びる凹凸条 13 を設けている。

この回り縁をたとえば浴室の天井などに用いるには、第 3 図に示すように壁面 1 に取付けた野縁 2 に固定具 3 を釘 14 で固定し、その固定具 3 の嵌合溝 15 に板状水平片 8 の上方に設けた取付部 9 を嵌合するとともにパツキン 12 と固定具 3 との間に天井材 5 を嵌入して固定する。この場合、天井材 5 の厚みが薄いときには一点鎖線で示すように上方湾曲部 10 の水平部 11 に付設したパツキン 12 がその天井材 5 に密着して上方で把持するとともに、天井材 5 が厚いときにはまず軟質のパツキン 12 が変形しつぎに板状水平片 8 よりも厚みを薄くした上方湾曲部 10 が曲球半径が大きくなるように延びて固定具 3 との間隔が広げられその間に天井材 5 が挿入把持されることとなり、板状水平片 8 はその厚みに伴う剛性のために変形することがない。すなわちパツキン 12 および上方湾曲部 10 により天井材 5 の厚みをすべて吸収してしまふのである。

また、この板状水平片 8 および上方湾曲部 10 にはその長手方向に沿つて水平方向に延びる凹凸条 13 を設けているため、浴室の湿気に伴つて発生する結露は壁面 1 側に流れることなくその凹凸条 13 から滴下するために壁面 1 を汚すことがないという効果がある。

この考案の第 2 の実施例を第 4 図に示す。すなわちこの回り縁は、板状体 16 の一方側の厚みを薄くして湾曲部 17 としその側縁にパツキン 12 を

付設するとともに他方側を内側に屈曲させ垂直部 18 を形成したもので固定具 3 を介して一段高い天井 19 に取付けるとともに湾曲部 17 と固定具 3 との間で天井材 5 を挟接することにより段差を有する天井用の見切り縁として用いることができるものである。

なおこれらの実施例においてはパツキン 12 を湾曲部の側縁に付設するようにしたがこれを一体的に形成してもよく、またこの見切り縁は天井部分だけでなく壁面やその他一般の件上げの異なる

接続部分にも適用することができる。

以上のように、この考案の見切り縁は、板状体の

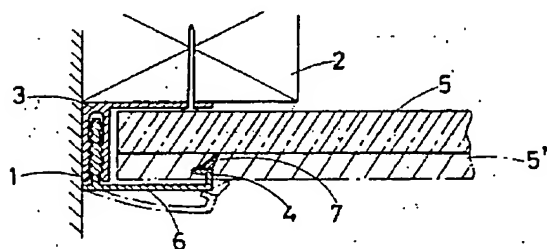
一方側の厚みを薄くして湾曲させその側縁に軟質材を付設するとともに他方側に取り付部を設けたので、厚みの異なる各種の建築用板を用いた接合部分に用いることができるという効果がある。

#### 図面の簡単な説明

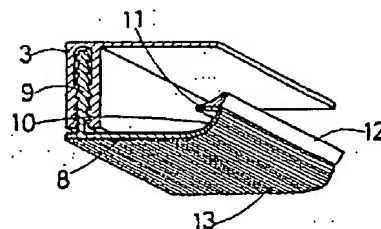
第 1 図は従来の回り縁の使用状態を示す断面図、第 2 図はこの考案の第 1 の実施例の切欠斜視図、第 3 図はその使用状態を示す切欠斜視図、第 4 図は第 2 の実施例の使用状態の断面図である。

1……壁面、8……板状水平片、9……取付部、10……上方湾曲部、12……パツキン、13……凹凸条、16……板状体、17……湾曲部。

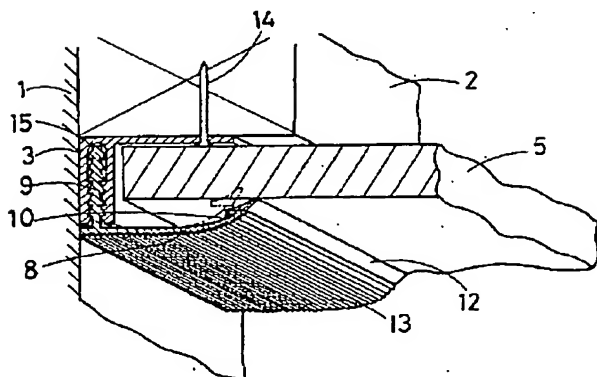
第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図

